

平成30年度第2回^{もり}森林の未来を考える懇談会 発言要旨

- 1 日 時 平成30年12月27日
- 2 場 所 杉妻会館3階百合
- 3 出席委員 5名
- 4 議 事

(1) 議題

森林づくりの提言策定専門部会の設置について（報告）

【事務局】

（資料6による説明）

【座長】

提言策定までのスケジュールは？

【森林計画課長】

第1回森林の未来を考える懇談会（以下「懇談会」という。）では、森林づくりの提言策定専門部会（以下「専門部会」という。）を設置し、年度内に懇談会として提言をまとめていただく考えである旨説明したところであるが、先日開催した第1回専門部会において、国の森林環境譲与税の使途に関する細部にわたる制度設計や、平成33年度から第4期目に入る県の森林環境税を活用した事業の検討、また、平成31年度に実施する県民アンケートやタウンミーティングの結果等を加味しながら検討すべきとの意見があり、今後、専門部会において調整したうえでお示ししたい。

【座長】

提言策定までの流れは変わらないか？

【森林計画課長】

専門部会で検討した提言を、懇談会に諮りつつ調整を行い、来年度の夏あたりのタイミングで提言としてとりまとめてもらう流れで考えている。

森林環境税の適正な運営を実施するために意見や評価をいただくことが、懇談会の主たる目的ではあるが、それだけでなく、将来的な森林づくりを見据えたなかで、今の森林環境税の取組等について意見や評価をいただいている。森林環境税の取組に限らず、将来的な森林づくりの在り方を検討していただきたい

【菅野委員】

森林づくりの提言の前に、理想の森林が何なのか県民に示す必要。県民一人一人がその森林を意識して行動できるようなPRも必要である。それには、人、時代、物、金など、それぞれ条件によって違ってくると思う。経済的な要素も含めて理想的な森林の形を、県民が意識できるような環境を早くつくることも必要である。県民一人一人が意識できる目指すべき森林を早急に示すべき。

【阿部委員】

目指すべき森林づくりを検討するに当たり、現状や課題の把握も重要である。限られた予算の中で、効率的な使い方を検討していかなければならない。

【座長】

とにかく分かりやすい目標が必要である。

【曾根委員】

平成25年に策定した提言をたたき台として策定する認識でいいのか？

【森林計画課長】

平成25年に策定した提言は、震災直後間もない時期に策定したものであり、それから5年が経過し、全国植樹祭の開催やふくしま植樹祭の開催もあり、震災直後減少した森林づくり参加者も現在では取り戻してきている。そういった状況の変化も踏まえて、基本的にはこの提言をベースに再度検討していただきたい。

(2) 情報提供

ア 第1回ふくしま植樹祭の開催結果について

【事務局】

(資料7による説明)

【薄井委員】

盛況でよかったが、もりの案内人の会としては、「森を育てる」、「森に親しむ」といった中身が薄かった。今までやってきた育樹祭では、森に親しむ活動イベントが盛り込まれていた。今回は海岸防災林ということで、なかかな難しかったかと思うが、今後、そういった中身を盛り込んでいただきたい。

また、木工クラフトも盛況であったがブースが狭かった。

【森林保全課長】

次回に向けての反省点をしっかり総括して活かしていきたい。育樹や森に親しむなど、森林環境学習の要素も踏まえて検討していきたい。

【曾根委員】

自然観察において森林環境学習用下敷きを活用している。前回の懇談会でいただいた間伐材鉛筆を環境学習で子どもたちに使わせたところ、鉛筆が木でできていることに気付いた子どもが、下敷きにある木材利用に鉛筆も含まれるのではと意見を出したり、子どもたちの感受性はとにかくすばらしいので、今後も私たちはそういった場面を子どもたちに提供していきたい。しかし私が活動している郡山こどものもり公園（郡山市）の森林はまだ除染していないので、森の中での自然観察ができないのが残念である。

イ 森林における放射性物質の状況と今後の予測について

【事務局】

（資料8による説明）

【座長】

懇談会で資料を提供いただく場合、森の中での自然観察会や環境学習等、実際にそういった場面を想定したときに放射能の影響がどうなのかといった内容でまとめていただけると議論しやすい。

【菅野委員】

土壌の中のセシウムは、どのように推移しているのか？

【森林計画課】

（資料9シート21）針葉樹におけるセシウムの分布割合をみると、震災当時、土壌に26%、落葉層に33%あったセシウムが、現在ほとんどが土壌に移行している。セシウム濃度はこの資料にはないが、地表面の落葉層については、H25とH29を比較すると4割程度まで下がっている。ただ土壌の浅い部分だけをみると、H25とH29を比較すると若干上がっている。落葉層と土壌を含めた地表面とするとH25とH29を比較すると若干下がっている。

【菅野委員】

その濃度数値は？

【森林計画課長】

継続的に土壌の調査をしているところが約60箇所あるが、スギ林を例とすると、その平均でH25が92kBq/m²だったものが、H29には113kBq/m²となり、若干上がっている。

【菅野委員】

それはどういう現象なのか？

【森林計画課長】

葉や幹にあった放射性物質が降雨等により徐々に流れ出してきた、一時期に落葉層にあったものが、さらに浸透して行って、現在土壌の浅い部分にとどまっている状態であると考えられる。

【座長】

委員からの意見が出尽くしたようなので、以上で本日の議事について終了する。